

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	病態制御科学領域 病態検査学教育研究分野 平野 龍一
指導教授氏名	萱場 広之
論文審査担当者	主 査 新岡 丈典 副 査 田坂 定智 副 査 浅野 クリスナ
<p>(論文題目) Impact on antifungal susceptibility patterns of previous vs. revised Clinical and Laboratory Standards Institute breakpoints for <i>Candida</i> species isolated from candidemia: experience of two tertiary care institutions in Japan.</p> <p>(カンジダ血症患者より分離されたカンジダ属菌への修正版 Clinical and Laboratory Standards Institute 感性基準による抗真菌薬感受性結果への影響に関する研究)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、菌種毎に異なる感性基準を設定した revised Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) breakpoints (R-BP) と従来の菌種非特異的な previous CLSI breakpoint (P-BP) との間における、カンジダ属菌に対する抗真菌薬耐性株検出性能の違い、および、カンジダ血症患者の予後規定因子について明らかにすることを目的としている。</p> <p>2007年1月から2016年12月の期間において、青森県立中央病院と弘前大学医学部附属病院でカンジダ血症と診断された患者計187例(193株)を対象とした。診断後30日以内の死亡率を主たる予後指標とし、多変量 Cox's ハザード分析により予後規定因子を同定した。</p> <p>R-BP に基づき抗真菌薬への感受性を評価した結果、fluconazole (FLCZ) (P-BP; 93.0% vs. R-BP; 79.4%)、および voriconazole (VRCZ) (P-BP; 97.2% vs. R-BP; 91.0%) への感受性率で有意な低下を認めた。個々の菌種では、<i>C. parapsilosis</i>、<i>C. glabrata</i>、<i>C. tropicalis</i> に対する R-BP による感受性率が、P-BP と比較して低下傾向を認めた。多変量 Cox's ハザード分析の結果、年齢、呼吸器疾患、<i>C. albicans</i>、抗真菌薬の未投与が有意な予後悪化因子であった。一方、血清アルブミン値、<i>C. parapsilosis</i>、外科系病棟入院患者、中心静脈留置カテーテル抜去、血液培養再検によるカンジダ属菌の陰性化確認が有意な予後改善因子であった。</p> <p>R-BP は P-BP と比較し、FLCZ や VRCZ などアゾール系抗真菌薬への耐性株を効率的に検出し、本傾向は <i>non-albicans</i> カンジダ属菌に対して顕著であった。これらの結果は、カンジダ血症患者より分離されたカンジダ属菌への抗真菌薬感受性検査の実施と、R-BP に基づく感受性判定の重要性を支持するものであった。本研究は、カンジダ血症の適切な治療管理に繋がる重要な情報を提供しており、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Clin Lab. 2019; 65(7). doi: 10.7754/Clin.Lab.2019.190110.

※論文題目が英文の場合は ( ) 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は 900 字程度で本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～「学位授与に値する。」と記入する。